

国際日本学がめざすもの..

その多面性と可能性



The Cabinet of Dr. Caligari

サウンド・オブ・サイレンツ — 無声映画と弁士の語り

最盛期には何千人もいたという活動写真弁士たち。弁士はサイレント映画上映の際に生の語りをつけていた。遠い昔の遺物であるという印象が強いかもしれないが、声優がアニメのキャラクターに命を吹き込み、アナウンサーがスポーツの実況中継でヒューマンドラマを創り出すのと同様、100年前の弁士たちは日本の映画鑑賞に不可欠の存在だった。今回は、弁士説明の分析を通して、海外の映画が日本の映画館でどのように受容されたかを見てゆきたい。また、現代の弁士が行なっている様々な試みと活躍も新たな弁士の役割として紹介する。映像や音声の実例には、現在取り組み中のデジタル・アーカイブからの資料や、戦前に存在した新宿武蔵野館のバーチャル・リアリティ版を使う予定である。

9月14日(金)

会場：東京外国語大学
研究講義棟 101 教室
時間：17:45～19:15
一般公開／入場無料／予約不要

大森恭子氏

(ハミルトン大学 東亜言語文学部
学部長・准教授)

専門は20世紀の日本大衆文化研究。特に、戦前から戦間期の映画や雑誌、占領期のラジオ番組など。優れた日本語教育者に送られる the national Hamako Ito Chaplin Award 受賞。

